

## 犬猫以外の哺乳類に関する飼養管理基準の検討に係る

### 業界団体ヒアリング結果概要

日本ペット用品工業会、日本小鳥小動物協会及び全国ペット協会から飼養管理基準案についてヒアリングを行った。

#### **【日本ペット用品工業会・日本小鳥小動物協会】**

#### **○飼養管理基準素案に対するご意見**

- ・温度については、動物種によって適温が異なるが、店舗では同じ場所で飼養する複数の動物種の適温が重複している範囲で飼育することができれば対応しやすいだろう。
- ・湿度については、動物種ごとに細かく湿度管理することは正直現実的ではないと思う。衛生環境を維持するには換気も必要だが、湿度を保つためには密閉しなくてはならないこともある。
- ・本来の生態や生息地、生産地によって適した環境は異なるため、湿度を好む種類、温かい場所を好む種類等で記載を広く分けた方が業界も受け入れやすいルールとなるだろう。
- ・運動の必要性や運動スペースについては、被捕食動物、草食動物は、犬猫のような捕食動物と異なり、捕食動物に追いかけて逃げるために運動しているため、本来は必ずしも運動したいわけではない。運動が好きではない動物もいるため、種・生態に合わせた環境を考える必要があるだろう。
- ・運動させるスペースと時間の件で、飼養管理基準素案の中に『飼養期間が長期間にわたる場合にあっては必要に応じて』とあるがこの長期間の基準をせめて半年などに設定できないか。犬猫と小動物を一緒にして管理するのは無理がある。
- ・ウサギには、広さよりもシェルター等の隠れられる場所の方が重要である。草食動物は不特定多数の人に触られる環境や音がする環境がストレスとなるため、触れ合いの休息时间については賛成である。
- ・ウサギは個体同士（雄同士）で喧嘩する種類であり 1 頭飼いが基本であるため、頭数を多く取り扱っているペットショップやブリーダーの場合、非常に広いスペースと時間が必要となり事業が成り立たなくなり、廃業する会社もでるだろう。事業形態毎（ブリーダー・小売店・動物園など）に基準を個別に考えるべきと思う。

- ・小売店、ブリーダーが実際に犬・猫と同様に1日3時間頭胴長6倍のスペースで運動させるという事はほぼすべての店舗で不可能。特にうさぎは1頭飼いが基本であり1店舗3頭程度までしか管理できなくなる。そうなれば事業として成り立たない。
- ・小売店の場合はハムスターであれば平均1～2ヶ月程度で販売するところ、運動スペースが必要か。ブリーダーの場合、授乳中や育児中は除外するというような調整をしないと、親の体調が悪くなったり、育児放棄などにより、子供が育たなくなる可能性が出てくるだろう。
- ・各動物種のケージサイズは、既存のケージにそのサイズがない場合もあるため、オーダーメイドにならざるをえない場合もある。
- ・ハムスターの場合は、1階から2階までチューブや階段でつながっていて走ることができるケージもあるため、延べ床面積で運動スペースの基準面積を超えればよいのか等も検討してほしい。また、回し車などの器具で運動できるのであればスペースを拡げる必要がないのではないか。
- ・単独飼育の場合、複数飼育の場合だけでなく、ブリーディング中、授乳中の雌の場合などのライフステージ別でも必要スペースを分けて考えた方がよいと思う。

## 【全国ペット協会】

### ○飼養管理基準素案に対するご意見

- ・季節変化を考慮した光環境の管理について、猫以外の動物にとってどこまで季節変化を意識する必要があるのか。
- ・ウサギ、チンチラ、フェレットについて、ケージ等の規模に懸念がある。分離型や運動スペースの記載があるが、実際の営業を考えると、小動物で分離型ケージは非現実であり、運動スペース一体型になると想定される。
- ・フェレットは走り回るため運動させる時間やスペースがあってもよいと思う。
- ・ウサギの場合、店舗の営業中に分離型スペースから運動型スペースへ移動させる想定だと、移動自体にストレスが想定される。また広いスペースに移したとしても怖がって端に固まるだろうことから、シェルターなどが必要。
- ・運動スペースに移すことによってウサギが怖がる理由は、普段いる場所と違うこと、(複数頭を同時に運動スペースに移す場合、)他の個体がいることの両方があるだろう。
- ・運動スペース一体型ケージになると非常に広いスペースになるため、展示できる頭数が大分制約されてしまう。また、これだけのサイズのケージを用意すること

で相当な費用が発生するだろう。

- ・ウサギは広いスペースに 15～30 分ほど出ると、自分のケージに戻ってしまう。長い時間寝床に戻れないこと自体がストレスになるのではないか。
- ・ハムスターの場合、運動として回し車等があると思うが、例えばジャンガリアンハムスターであれば大きくても 19 cmのホイールで問題ない。それが入るスペースがあれば、運動スペース一体型のケージは 40 cm程度の大きさでよいのではないかと思う。
- ・表情や行動だけでストレスを判断することが難しいため、息の荒さ、逃げる、嫌がる等、小動物のストレスを確認する基準があるとよいのではないか。